

平成 24 年度

文部科学省 大学教育改革推進事業

「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

『地域産業界連携教育力改革プロジェクト』

プロジェクト演習成果発表会

平成 24 年 12 月 18 日

豊橋創造大学 情報ビジネス学部

地域産業界連携教育力改革プロジェクト プロジェクト演習 成果発表会

— 情報ビジネス学部 —

◇開催スケジュール

日時:平成24年12月18日(火) 4、5限

場所:豊橋創造大学 B14教室

参加者:情報ビジネス学部3年生、4年生、情報ビジネス学部専任教員、CKP 委員、連携企業・団体、報道関係者

◇式次第

14:50～14:53	挨拶	伊藤晴康学長
14:53～14:55	プロジェクト活動の目的・主旨説明	三好学科長
14:55～14:57	プロジェクト表彰の説明	事務局より
14:57～16:17	プロジェクト成果発表 第1セッション(6プロジェクト) ※質疑応答(2分)は、各プロジェクトの発表ごとに実施	
16:17～16:25	休憩 ※iPad のシリアル No.を記入	
16:25～17:30	プロジェクト成果発表 第2セッション(5プロジェクト)	
17:30～17:35	総括	佐藤学部長
17:35	閉式	
17:35～17:45	投票用紙記入、回収	事務局より(説明)
17:45～17:50	全体写真撮影	
17:50～18:00	来賓移動	村松 東(誘導係)
18:00～18:30	懇親会 会場:キッチン SOZO	中村渉外部長

地域産業界連携教育力改革プロジェクト プロジェクト演習 成果発表会

順番・時間配分について — 情報ビジネス学部 —

1. 順番

<第1セッション>

順番	発表時間	プロジェクト	プロジェクトテーマ
1	14:55 ~ 15:05 (10分)	加藤プロジェクト	ヨシノパンプロジェクト
2	15:09 ~ 15:19 (10分)	石田プロジェクト	三河湾豊橋コンテナターミナルの役割と機能に関する研究
3	15:23 ~ 15:33 (10分)	今井プロジェクト	iPad、iPhone で利用できるアプリケーションの作成
4	15:37 ~ 15:44 (7分)	川戸プロジェクト	SOZO ショップ開店・運営
5	15:48 ~ 15:58 (10分)	見目プロジェクト	豊橋エコタウンプロジェクト
6	16:02 ~ 16:12 (10分)	三輪プロジェクト	のんほいパーク盛り上げ隊

休憩 16:15 ~ 16:25

<第2セッション>

順番	発表時間	プロジェクト	プロジェクトテーマ
7	16:25 ~ 16:35 (10分)	中野聡プロジェクト	田原のウインドファーム ～社会的企業の実証研究～
8	16:39 ~ 16:49 (10分)	野口プロジェクト	豊橋からオレオレ詐欺をブツ飛ばせ!!
9	16:53 ~ 17:00 (7分)	三好プロジェクト	豊橋トップインタビュー 2012
10	17:04 ~ 17:14 (10分)	五味プロジェクト	医療情報の学習環境構築と運営
11	17:18 ~ 17:28 (10分)	山口プロジェクト	豊橋献血促進プロジェクト

2. 時間配分

- ◆ 発表時間は1プロジェクトあたり7分間とする。ただし、延長を希望したプロジェクトは10分間。
- ◆ 発表時間終了 1分前で1鈴、終了で2鈴を鳴らす。
- ◆ 質疑応答は、プロジェクト毎に2分間とする。

豊橋創造大学 情報ビジネス学部 プロジェクト活動成果発表会

参加者名簿

【来賓】

敬称略順不同

会社名	役職名	氏名
(株)アイエスエル		伊藤 弘尚
よしのペイカリー(株)	代表取締役	鈴木 雅晶
豊橋信用金庫	人事部 次長	小宮山 豊
豊橋市福祉部長寿介護課	主事	佐野 真司
(株)シライ パッケージプラザシライ本店	代表取締役	白井 成明
ワルツ(株)	代表取締役	片桐 逸司
愛知県赤十字血液センター 豊橋出張所	事業課 推進係長	日比野 高仁
愛知県赤十字血液センター 豊橋出張所	事業課 主事	平井 祐一

【本学】

情報ビジネス学部

役職	氏名
学部長・教授	佐藤 勝尚
学科長・教授	三好 哲也
教授	石田 宏之
教授	今井 正文
教授	川戸 和英
教授	見目 喜重
教授	島田 大助
教授	中野 一豊
教授	中野 聡
准教授	加藤 尚子
准教授	三輪 多恵子
准教授	山口 満
准教授	五味 悠一郎
講師	野口 倫央
嘱託講師	村松 東

地域産業界連携教育力改革プロジェクト委員会メンバー他

役職	氏名
学長	伊藤 晴康
副学長	木村 和夫
短大部 キャリアセンター科科長	今泉 仁志
短大部 キャリアセンター科准教授	村松 史子
短大部 キャリアセンター科講師	細谷 邦夫
事務局長	前川 文男
渉外部長	中村 隆三
キャリアセンター室長	伊藤 欣也
教務課長	佐々木 令
教務課係長	遠山 直人
サポートセンター主任	桐木 道彦
キャリアセンター主任	富安 奈々
キャリアセンター課員	黒木 竜馬
教務課課員	若松 雄一郎
補助事業担当職員	和田 利子

豊橋創造大学情報ビジネス学部 プロジェクト連携企業・団体一覧

(株)アイエスエル

愛知県豊橋赤十字血液センター

愛知県三河港務所

(株)インターネットイニシアティブ

NPO 法人 どんぐりの会

(株)お亀堂

金城ふ頭コンテナターミナル

田原市市民環境部エコエネ推進課

豊橋市教育委員会

豊橋市企画部政策企画課

豊橋市産業部港湾活性課

豊橋市福祉部長寿介護課

豊橋総合動植物公園

豊橋商工会議所

豊橋市発展会連盟

豊橋信用金庫

日本通運(株)豊橋支店

日本通運(株)豊橋支店 海運営業所

パッケージプラザシライ本店

よしのベイカリー(株)

ワルツ(株)

(敬称略順不同)

活動報告

頁	プロジェクト名	プロジェクトテーマ
9	加藤プロジェクト	「ヨシノパンプロジェクト」
10	石田プロジェクト	「三河湾豊橋コンテナターミナルの役割と機能に関する研究」
11	今井プロジェクト	iPad、iPhone で利用できるアプリケーションの作成
12	川戸プロジェクト	SOZO ショップ開店・運営
13	見目プロジェクト	豊橋エコタウンプロジェクト
14	三輪プロジェクト	のんほいパーク盛り上げ隊
15	中野聡プロジェクト	田原のウィンドファーム ～社会的企業の実証研究～
16	野口プロジェクト	豊橋からオレオレ詐欺をブッ飛ばせ!!
17	三好プロジェクト	豊橋トップインタビュー2012
18	五味プロジェクト	医療情報の学習環境構築と運営
19	山口プロジェクト	豊橋献血促進プロジェクト

1. プロジェクトの目的

本プロジェクトでは、プロジェクトメンバー4名が協働し今回の活動に取り組むことで、学内購買横に設置されているヨシノパン自販機の売上向上に貢献することを目的としている。

2. プロジェクト内容

本学に設置されているヨシノパン自動販売機の売上を向上させるため、AIDMAモデルをもとに、自販機の認知やヨシノパンに対する興味関心を調査するために学内でアンケートを配布して回収を行い、鈴木社長様にプレゼンテーションを行った。学内購買横にパン自販機があることへの注意およびヨシノパン自販機への興味・関心を高めてもらうため、アンケートを直接学生に手渡し回答してもらったり、アンケートやインタビューを通じて得た情報をもとに「パン自販機のひみつ」と題した紙面の作成・掲示を行ったりした。

3. 結果

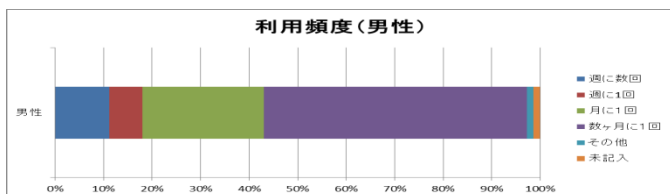
(1) アンケート結果

第1回アンケートでは、購買横にあるヨシノパン自販機に対する在学生の認知度を調査し、認知割合は高いことがわかった(表1参照)。第2回アンケートでは利用状況を調査、利用割合は男子学生が46%から41%、女子学生は40%から50%、また利用頻度は男子学生が高まる傾向がみられ、女子学生は低くなる傾向がみられた(図1から図4参照)。

表1 パン自販機の認知割合

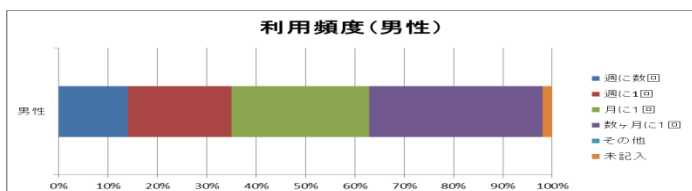
自販機の認知(男性)			自販機の認知(女性)		
知っている	知らない	合計	知っている	知らない	合計
114	5	119	167	5	172
96%	4%	100%	97%	3%	100%

図1. パン自販機の利用頻度(男性)



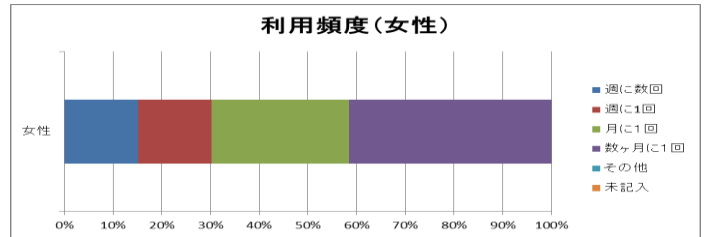
* 第1回アンケート結果より (n=72)

図2. パン自販機の利用頻度(男性)



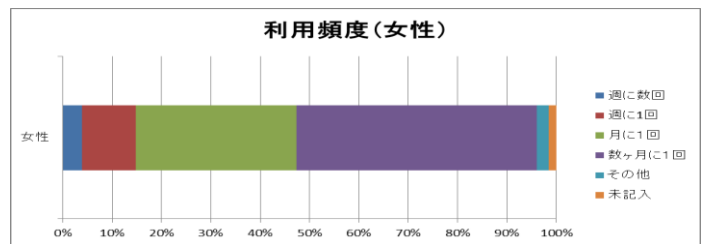
* 第2回アンケート結果より (n=100)

図3. パン自販機の利用頻度(女性)



* 第1回アンケート結果より (n=53)

図4. パン自販機の利用頻度(女性)



* 第2回アンケート結果より (n=129)

(2) 売上向上に関する効果

12月初旬から販売個数向上が確認された(2012年12月11日鈴木氏インタビューより)。今回のプロジェクト活動を受け、大学内パン自販機において世新作パンが数多く販売されることとなった(2012年12月11日鈴木氏インタビューより)。

4. プロジェクト活動に対する振り返り

成果報告会ではプロジェクト活動に対する振り返りとして、次の2点を取り上げることとする。第1に、プロジェクト活動におけるPDCAサイクルが機能しなかった場合を取り上げ、どのような問題があったために機能していなかったかについて考察する。第2に、就業力の観点からプロジェクトメンバー一人ひとりの就業力について振り返ることとしたい。

5. プロジェクト演習を通じて得たもの

1点目として「責任感」が挙げられる。各自の役割に対する責任を自覚し、行動するようになった。2点目として「コミュニケーション能力」の必要性に対する気づきが挙げられる。インタビューでは、話す力、聴く力、事前準備など様々な力が必要であることを実感した。また、プロジェクト活動ではメンバー内における情報共有をしっかりとしていなければプロジェクトが円滑に進まないことがわかった。そのため、ミーリングリストの活用を増やすとともに、メンバーと活動確認のやりとりを増やすことで情報共有を促進させた。

ⁱ 今回のプロジェクト実施にあたりましては、よしのベーカリー株式会社 代表取締役社長である鈴木雅晶様にご協力いただくことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

豊橋港のコンテナターミナルの機能と役割（発展可能性）に関する調査研究

石田ゼミ（プロジェクトメンバー：宇野、影山、杉浦、松田）

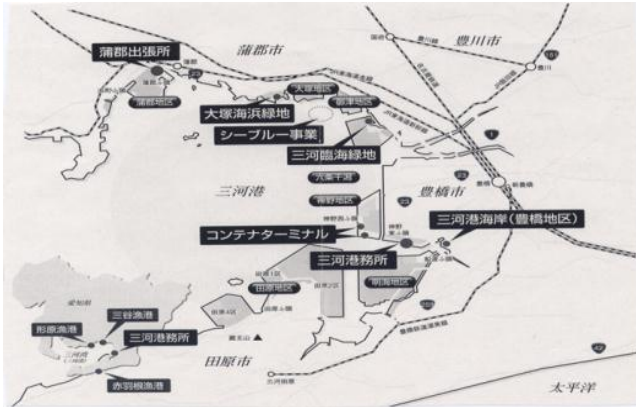
1. 調査の目的

調査研究の目的は、三河港豊橋コンテナターミナルの機能と役割（発展可能性）についてまとめることである。と同時に、この調査研究を通じて、「就業力を高めること」および「卒論の準備作業」を実施することである。

2. 三河港の位置づけ

全国の港は平成 23 年 3 月 31 日に港湾法を改正により、特定重要港湾を国際戦略港湾、国際拠点港湾の二つと重要港湾、地方港湾の 4 つに分けられた。また、前年には重要港湾から 43 港を「重点港湾」として選定し、三河港は重点港湾になった。

三河港は下記の図の通り、6つの地区から構成され、神野地区と明海地区を合わせて「豊橋港」と呼んでいる。



3. 調査対象企業

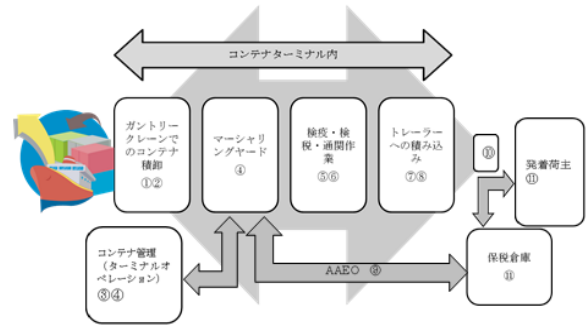
月日	調査対象箇所	協力者	調査内容
4月19日	日本通運株式会社 豊橋市店	次長・鈴木 敏道	・調査依頼（承諾してもらう。）
5月17日	日本通運株式会社 豊橋市店	次長・鈴木 敏道	・メンバーの自己紹介
6月7日	日本通運株式会社 豊橋市店	管理課長・尾崎 慎	・調査全体に対するアドバイス・注意事項
6月8日	日本通運株式会社 海運営業所	課長・嶺見 典男	・豊橋支店の業務内容 ・海運営業所の業務内容 ・三河港豊橋コンテナターミナルの業務内容 ・貿易の実務、港の機能
7月6日	豊橋市産業課港湾活性化課 ・三河港コンテナターミナル株式会社	金田 紀之 専務取締役	・港湾活性化課の業務内容 ・自動車コンプレックスについて
7月6日	愛知県三河港湾事務所	伊庭 雅裕 総務課主幹	・三河港豊橋コンテナターミナルの概要説明 ・三河港豊橋コンテナターミナルの現状報告
8月1日	三河港豊橋コンテナターミナル	山本 真至 総務課主査 鈴木 和貴 海運営業所	・三河港豊橋コンテナターミナルの現地視察、 ・検閲及び検査に関するヒアリング
8月16日	日本通運名古屋国際輸送支店	課長・嶺見 典男 係長・伊原 浩之	・三河港豊橋コンテナターミナルの現地視察

4. 豊橋港の公共ふ頭におけるコンテナターミナルの役割

豊橋港は隣接する田原地区とともに、国内の完成自動車の輸出基地であるとともに、輸入完成自動車の基地(三河港全体で全国 1 位の取扱量を誇っている)となっている。また、公共ふ頭では、自動車と並んで、「コンテナターミナル」の取り扱い割合は、自動車に次いで約 14%を占めており、拡大傾向を示している。

5. コンテナターミナルのオペレーション

輸出入コンテナの発着から荷主までの流れ



6. コンテナターミナルの機能と役割

・三河港は「重点港湾」として、「国際拠点港湾」である愛知県の名古屋港及び三重県の四日市港との連携を図りながら、輸出入完成車の拠点であるとともに、「アジア向けコンテナターミナル基地」機能を果たす役割を担っている。

・豊橋コンテナターミナルの後背圏は広く、立地している企業も多いため、コンテナ貨物の潜在量はかなりあると推測される。また、現状のコンテナターミナルの能力は、現状の 2 倍の量を取り扱うことができる。

・豊橋コンテナターミナルが有するメリットは①低廉性②通関の迅速性③緊急時対応の迅速性④インターナショナルモーダルシフトである。

・完成自動車の海外生産が続いていることを考慮すれば、今後コンテナターミナルの役割は重要となってくる。

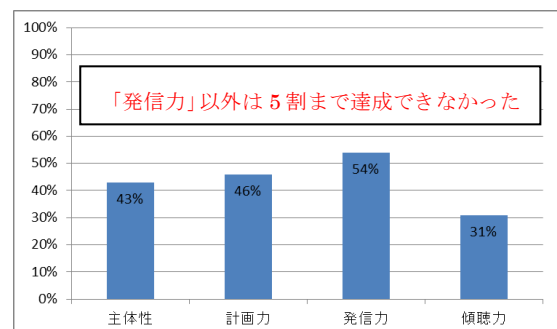
～課題～

・7号岸壁、8号岸壁の統合を図ること。

・オペレーション業務をコンピューターで管理すること。

・ダメージコンテナの修理のために、船会社をターミナル内に設けること。

7. 就業力達成率



iPad, iPhone で利用できるアプリケーション作成

情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科 今井ゼミ
3年 田口聖也、山本宜輝、伊藤脩、幸田紘樹、若松優子

1. プロジェクトの組織と協力先企業

プロジェクトメンバーは、3年 田口聖也、山本宜輝、伊藤脩、幸田紘樹、若松優子、プロジェクト協力先企業は、株式会社アイエスエル様、株式会社 IIJ 名古屋支社様である。

2. プロジェクトの背景と目的

経営学部では全学年に iPad が無償貸与され、教材として使うだけでなく、レポート作成のための情報収集やゼミナールでのプレゼンテーション作成、就職活動などの場面に利用されている。また、無線 LAN 環境も完備されており、学内どこからでもインターネットを利用することができる。そこで、本プロジェクトでは、iPad の学内でのさらなる有効活用のため、iPad の特性を活かした学習支援アプリ作成、アプリ作成を通じて開発技術を学ぶとともに学習ツールとしての効率的な活用を考える事を目的とする。

3. プロジェクトの内容

プロジェクトの内容は、授業での利用を目的とした学習支援アプリの開発を行う。学習支援アプリは、テスト問題の製作・配信、解答の機能を備え、学籍番号や名前等の項目表示、キーボード及び手書き文字入力、データベース接続（データ送受信）の機能を有する。iPad アプリの制作方法は、(1) Xcode、(2) HTML/CSS/JavaScript および PhoneGap、(3) FileMaker 等がある。また、前述した iPad アプリの制作に必要な環境は、ハードウェアとしては、Mac 端末、Windows 端末、iPhone/iPad（実機テスト用）、ソフトウェアとしては OS X、FileMaker Advance Pro、FileMaker Go (iPad/iPhone 用) が必要となる。

3.1 FileMaker と PhoneGap を用いた学習支援アプリ開発

学習支援アプリの制作方法や開発環境の検討にあたり、協力先企業様から得たアドバイスや情報を参考にした。

学習支援アプリの開発には、主流な Xcode を用いる方法も候補に挙がったが、まずは初めての試みであるため、扱いやすい FileMaker を用いた。学習支援アプリは、サーバのデータベースと連携している。実装した機能は、学籍番号と氏名の表示と設問に対してキーボード及び手書きで解答を入力するものである。FileMaker を用いて制作した学習支援アプリの画面イメージは図 1 の通りとなる。

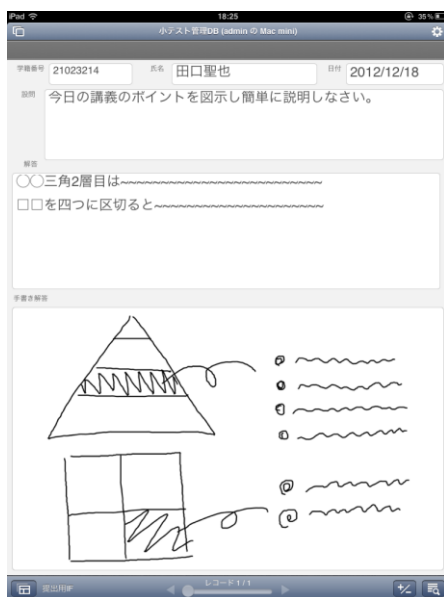


図 1 FileMaker 版学習支援アプリの

また HTML/CSS で制作した Web アプリを、PhoneGap を用い

て iPad アプリに変換する事を試みた。PhoneGap は、HTML5、CSS、JavaScript などの Web 標準の技術で作成した Web アプリを、iPhone や Android などのデバイスにインストール可能なネイティブアプリへ変換するフレームワークである。ターゲットとなるモバイル OS には、iOS、Android 等がある。HTML/CSS を用いて制作した学習支援アプリの画面イメージを図 2 に示す。

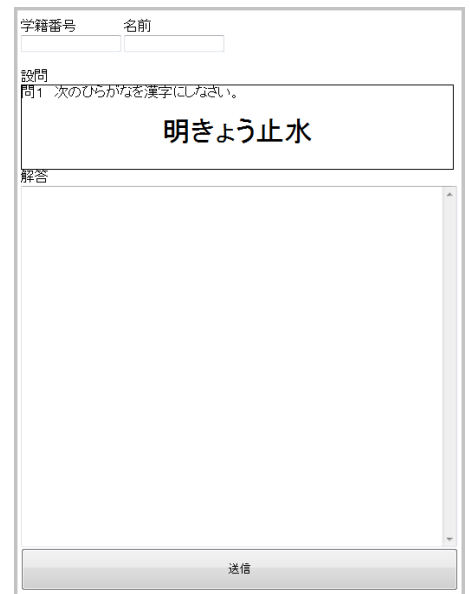


図 2 HTML/CSS 版学習支援アプリの例

併せて昨年度に開発しメンタルタフネス講座で使用した HTML/CSS および JavaScript で実装された Web アプリも、PhoneGap を用いて変換した。Web アプリの画面イメージは図 3 の通りとなる。この様に一般的な Web アプリを変換する事によって iPad 向けアプリを開発することが可能である。



図 3 Web アプリの変換の例

4. プロジェクトの考察

今回のプロジェクトでは、学習支援アプリ制作の開発環境や制作方法の時点からを協力企業の方にご助言を頂きながら選定する所から始め、アプリ開発の基礎知識やいくつかの制作方法を学びながら試作アプリをいくつか作成することができた。反省点としては、まず、アプリ開発に関する役割分担が明確化できず作業がスケジュール通りに進まなかったことである。また、当初、ネットワークアプリ開発も視野にネットワークサービスを提供している IIJ のデータセンターの見学等も行ないネットワークの仕組みや運用方法についてご助言頂いたが、本格的なネットワークアプリ開発やサーバ設置までは至らなかった。今後は、試作アプリのテストやマニュアル作成等の残りの作業を分担とスケジュールを調整しながら行う予定である。可能なら学習支援アプリの実用化および X-Code による更に高度なアプリ開発に取り組んでいきたい。

SOZO ショップ開店・運営プロジェクト

情報ビジネス学部 川戸ゼミ：小林克希・兵頭康貴・大橋宏平・平松愛子

プロジェクトの目的

- 広小路商店街に SOZO ショップ開店・運営

内 容

①理論学習：文献購読による知見蓄積

- ・D.シュルツ「統合マーケティング」
- ・E.コトラー「マーケティング 3.0」
- ・野口智雄「店舗戦略ハンドブック」
- ・P.F.ドラッカー「マネジメント」
- ・栗木 契「マーケティングコンセプトを
問い直す」

②基礎調査：

- ・商店街視察：平日・土日状況、立地、環境
- ・ヒアリング調査・関係性構築
 - ・広小路商店街 1 丁目
 - ・広小路発展会連合会
 - ・愛知県商店街振興組合連合会
 - ・豊橋商工会議所
 - ・ほの国百貨店
 - ・御油どんぐり工房
 - ・豊川 NPO パルク
- ・全学学生アンケート調査実施：標本数 600

③店舗企画：

- ・店舗内容：販売商品洗出し、開催イベント
- ・仕入れ先洗出し
- ・店舗レイアウト

④店舗広報計画：

- ・店名企画
- ・店舗スローガン
- ・広報ツール；看板、店内グッズ、広告、
開店イベント、大学提携
イベント
- ・スタッフ体制・連絡網整備

⑤店舗運営：共同経営者募集

⑥付随事業：店内整理・清掃

到達点

①店名：SOZO ショップ「笑 輪」
(しょうわ)

②店舗スローガン：「笑顔、見つかる」

③商品仕入れ協力者・社 (2012/12 現在)

- ・御油・どんぐり工房
- ・豊川・NPO パルク
- ・平松農園
- ・豊川ゼリー

④販売商品リスト

商品名	販売期間			
	春	夏	秋	冬
地元産の大葉(青じそ)	←→			
地元産のみかん	←→			
地元産のトウモロコシ	←→			
地元産のゼリー	←→			
NPO製造パンケーキ	←→			
駄菓子(昔懐かしいお菓子)	←→			

⑤開店予告ポスター (予定)



豊橋エコタウン・プロジェクト

～豊橋市内小中学校に設置された太陽光発電システムの状況調査～

青木優 古野優輝 高畑広恵 高藻惇史

1. 背景・目的

近年、資源の枯渇化、地球温暖化といった環境の対策から、再生可能エネルギーの普及と拡大が求められている。中でも太陽光発電はクリーンであることをはじめ、どこにでも設置可能であるとともに可動部がないために静穏であるなどの利点があるために注目を集めている。

その一方で、太陽光発電システムの導入量の増大に伴い、システムの長期信頼性の評価が課題となっている。

太陽光発電の長期信頼性の評価には、ある地域における複数のシステムの長期的なデータ収集・分析が必要である。

本プロジェクトでは、豊橋市において平成22年3月末に市内全74小中学校に太陽光発電設備の設置が完了していることに着目し、太陽光発電システムの長期信頼性を評価するために市内小中学校のシステムの状況調査を行う。



図1 太陽光システム導入例(羽田中学校)

2. 調査内容

太陽光発電システムの長期信頼性は、①故障を起こさず、安定した運転が継続しているか、②発電性能が維持されているかにより評価される。そこで、これらの二つの項目に着目して市内小中学校のシステムを訪問調査した。

訪問調査では、教育委員会から各校の担当者に協力の依頼をしていただくとともに、本学より各校の学校長あてに協力の依頼状を送付した。その後、各自が各校の担当者にアポイントメントをとった。

訪問当日は、太陽光システムの事故・トラブルの有無について質問するとともに、システムの設置状況を確認した(図1)。また、環境教育の実施状況、非常用電源工事の有無、グリーン電力証書の連絡の有無、発電量測定の有無についても質問をした。発電量を測定している学校においては、累計発電量のデータを収集した。

表1 市内小中学校のシステムの故障状況

故障内容	H23	H24	累計
インバーター	2	2	4
太陽光パネル	1	1	2
システム停止	1	0	1

3. 調査結果

3-1 システムの故障状況の調査

訪問調査での質問の結果、表1に示すようにシステムの運転に支障をきたす事故・トラブルのあった学校は74校中7校であり、その主な原因はインバーターの故障と太陽光パネルの破損であった。

この他にも、表示板のトラブルなどが7校で発生していた。

3-2 システムの性能劣化の調査

システムの性能は変換効率(=発電量÷日射量)で評価される。発電量および日射量は、太陽電池パネルの設置方位・角度により大きく変化する。図2には豊橋における年間日射量の設置方位・角度による変化を示す。豊橋では、年間日射量は南・30度で最大となる。

市内小中学校では3校で発電量が計測されている。図3には平成12年にシステムが設置された新川小学校の月発電量の推移を示す。同校では日射量データが記録されていないため、日射量と強い相関を持つ日照時間を同図に示す。なお、豊橋の日照時間の観測地点が平成20年に移動しているため、継続的な比較をするために豊橋の日照時間とほぼ同じ値である伊良湖のデータを用いた。

同図から、日照時間がほぼ一定の範囲内で変動しているのに対して、発電量は減少傾向にあることが分かる。このことから、システムの性能劣化が疑われる。この劣化があらかじめメーカーが提示している範囲内であるかどうかを評価するために、より詳細な分析が必要である。

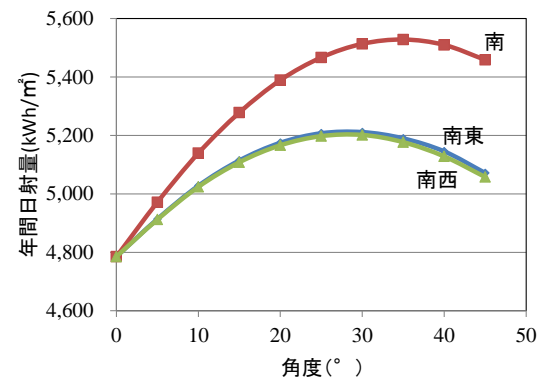


図2 設置方位と角度による豊橋の年間日射量の変化

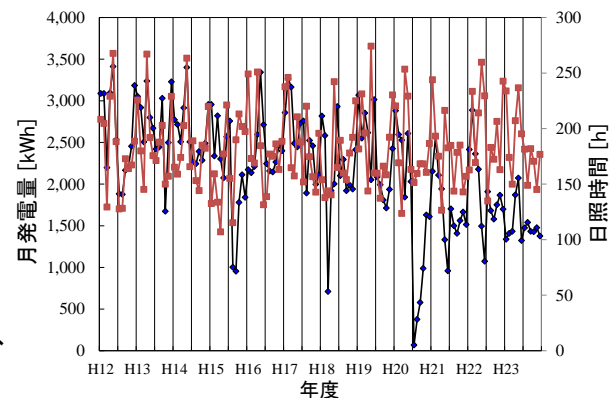


図3 新川小学校の発電量の推移

4. 今後の予定

今後は、豊城中学校と吉田方中学校のデータを用いながら新川小学校を含めた3校の性能劣化についてより詳細な分析を試みる予定である。

参考資料

- (1) 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

<http://www.nedo.go.jp/library/nissharyou.html>

診療情報管理士認定試験対策の学習環境構築 2012

情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科 五味プロジェクト

3年 中濱聡史 内藤愛結実

渡辺大祐 小田郁太

(幸田紘樹 櫻井駿)

1. プロジェクト目標

診療情報管理士認定試験合格を目的に、診療情報管理士認定試験の勉強、外部（医療機関）との交流、及び認定試験対策に役立つデジタル問題集の作成を目標としている。平成 24 年度は平成 23 年度よりも高い合格率を目指し、診療情報管理士認定試験の勉強を行いながらプロジェクト活動を行っている。

2. 活動内容

以下の三つの活動を中心に、プロジェクト活動を行っている。

- ・自主勉強会
- ・診療情報管理士認定試験対策講座
- ・診療情報管理士問題集のデジタル化

次に、それぞれの活動の詳細を紹介する。

3. 自主勉強会

診療情報管理士を目指している豊橋創造大学の学生同士で、認定試験に向けて勉強する活動である。具体的な取り組みは、以下の三つである。

- ・診療情報管理士を目指している豊橋創造大学の学生が認定試験に向けて勉強する。
- ・全員が集合できる時間を確認し勉強会を行う。
- ・教室は勉強会を行う時間に使用されていない教室で実施する。

平成 23 年度は診療情報管理士を目指している豊橋創造大学の学生が少なく、自分で勉強した方が早いとのことで、自主勉強会を行わなかった。

平成 24 年度は診療情報管理士を目指している豊橋創造大学の学生が平成 23 年度より多いため、互いに教えあうことで学習効率を上げられるのではないかと考え自主勉強会を実施することになった。

3.1 実施内容

①一人（その日の担当）が問題集の範囲を指定する。担当は毎週ローテーションし、最終的に全員が担当する。

②担当以外のメンバーは指定された問題集の範囲を解く。

③担当は勉強会までに解説を作成し、答え合わせの時間に配布する。

3.2 現状報告

春学期は毎週木曜の 3 限を勉強会の時間として実施した。秋学期は火曜の 5 限終了後に実施している。

4. 診療情報管理士認定試験対策講座

診療情報管理士認定試験に合格できるよう、対策講座を企画・運営する活動である。対策講座は、豊橋創造大学へ外部講師にお越しいただき、認定試験に向けて勉強を行っている。

平成 23 年度の診療情報管理士認定試験対策講座受講者の合格者数・合格率は、学内申込者が 2 名中 2 名合格(100%)、外部申込者は 15 名中 13 名合格(87%)、全国の受験者の合格率は 3658 名中 1866 名合格(51%)であった。

認定試験対策講座を運営する目的は、以下の三つである。

- ・診療情報管理士を目指す外部申込者と一緒に真面目な雰囲気の中で勉強し、実際の職場の話を知ることによって、士気を高める。
- ・講座自体を自分たちで企画し、外部（医療機関）との交流を図り、連携することでコミュニケーション力を養う。

- ・平成 24 年度は対策講座のための文科省予算がないため、運営のために学外から人を集め、一人当たり 2 万円集めた。

この活動では秋学期に外部講師と連絡を取り合い、対策講座開講日程を決定した。外部申込者に講座へ参加してもらうため、東三河、西三河、他県の医療機関に案内状を封筒で送付し、豊橋創造大学の公式 Web サイトや診療情報管理士応援サイト等に講座の案内を掲示した。

平成 24 年度は外部申込者が 18 名集まった。平成 24 年 11 月 24 日に初回の対策講座を行い、今後は 1 日 3 コマの予定で平成 25 年 2 月 9 日まで正月を除き隔週で行う予定である。



5. 診療情報管理士問題集のデジタル化

認定試験の勉強方法は紙媒体（教科書、問題集）以外にないだろうかと考え、パソコンや iPad でも勉強できる CBT を作成することにした。

診療情報管理士認定試験に出そうな問題を、教科書を参考に自分たちで作成し、CBT に登録する(図 1)(図 2)。CBT とは Computer Based Training の略で、コンピュータを使用して人間の学習活動を支援するシステムである。今回制作した CBT 以外のシステムとして、Moodle、Handbook、SOZO Plantz などがあるが、今回の活動では CBT を学外に提供し、学外の利用者が自由に作問できる環境を目指しているため、CBT を新しく作成し使用することにした。

問題は O×形式で、1 問につき 5 つの選択肢を用意し、問題は 400 問以上の中からランダムで出題される形式とした。解答終了後に自分が間違えた解答が表示され、より効率よく勉強できるシステムを目指す。



図 1 診療情報管理士問題集



図 2 CBT のテスト画面

平成 23 年度は、問題集の著作権者から正式な許可が出なかったため、問題集をそのままデジタル化することは出来ず、CBT 作成は断念した。平成 24 年度は、テキストを参考に自分たちで問題を作成することにしたため、著作権の問題は発生せず、CBT を構築できる。完成した CBT は、利用アカウントを豊橋創造大学以外の診療情報管理士認定校や通教性に提供し、交流や連携をとることを考えている。

平成 24 年 12 月時点で目標作成数の半分である 200 問以上の問題が出来ているが、診療情報管理士認定試験対策講座の企画・運営に時間を取られてしまったため、受付作業が落ち着いてから再度作成作業に取り組む予定である。

田原のウィンドファーム

中野ゼミ 荻野 曾田
板倉 二木

1. はじめに

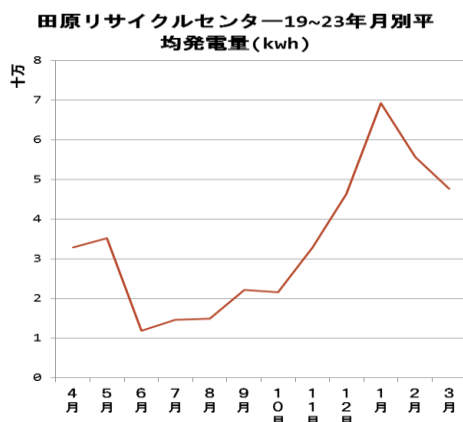
大型風力発電として最初に導入された蔵王山展望台風力発電施設は、「たはらエコエネルギー導入ビジョン」に基づき、当地域の自然エネルギーのなかでも最も期待されている風を利用して、公共施設にクリーンな電力を供給することを目的に建設されたもの。その後も「たはらエコ・ガーデンシティ構想」の基本理念である「環境と共生する豊かで持続可能な地域づくり」を目指すため、市民や事業者の風力発電施設導入に対して行政支援をしており、また NEDO の補助金などの後押しもあり、国内最大級のウィンドファームを形成するに至った。

なお、田原風力発電所は、愛知万博トヨタパビリオンの電力を賄う目的で建設され、その後ジェイウインドに管理移管された。また、田原リサイクルセンター風力発電所は炭生館の施設電力を賄う目的で建設された。ちなみに、市内の大型風力発電施設で市が建設・管理しているのは蔵王山展望台風力発電施設のみで、その他はすべて民間事業者のものである。

2. デメリット

1) 発電量のデメリット

季節によって風力が変わるため発電量が安定しない。そのため、風力発電での発電量が不十分な場合、火力発電で不足を補う。また、原発は出力の調整ができないため使用されない。



2) 低周波騒音

愛知県・田原市六連町に設置されている M &

D グリーン (株) の所有する細谷風力発電所の風車から約 350m 北東に住んでいる農家の方が建設直後から体調不良を訴える人が出ている。

主な被害として頭痛、体がピリピリする、頭が重くなる、不眠などがある調査はしても詳細な報告はなく、問題は解決していない。

3) ドイツにおける FIT の問題

再生可能エネルギーの導入量が、当初の見込みよりも急速に拡大し過ぎた。買い取りや系統電源の不安定化対策などにかかる費用が一気に膨れ上がり、制度の見直しが必要となった。

その結果、2013 年からは買い取り義務が全量ではなくし、2017 年には制度自体を廃止することも検討されている。

3. 将来

デンマークなどで浮体式洋上風力発電が普及し、我が国でも九州で実用化実験が行われている。洋上風力発電は、騒音被害などがなく、建設コストなどの課題が解決できれば日本でも一気に導入が進む可能性がある。しかし、漁業が盛んな地域では、漁業権の問題などからも海上への建設物は難しいのではないかと考える。また、臨海工業地帯を抱えており、定期的に大型船舶が往来することも考慮する必要がある。多方面での課題解決が不可欠である。日本の高い技術力とノウハウを活かし、浮体式洋上風力発電の早期実現を期待したい。



豊橋からオレオレ詐欺をぶっ飛ばせ！！

—3人の若者による撲滅への軌跡—

野口ゼミナール 伊藤佳佑 今泉裕希 史雯雯

1. プロジェクトの背景と目的

私達のプロジェクトでは、豊橋市への地域貢献を目的として活動を開始した。そこで豊橋市の特徴を調べてみたところ、前期高齢者と後期高齢者を合わせた割合が、愛知県で3番目に高齢者が多いことが分かった。私達は豊橋市に在住の高齢者のために何が出来るかいくつか活動を考えた結果、近年オレオレ詐欺が増加傾向であり、詐欺の撲滅活動を目指すことが一番の地域貢献だと考え、豊橋信用金庫様の協力を受けながら、プロジェクト活動を行った。

2. オレオレ詐欺の特徴

オレオレ詐欺とはどのような特徴を有しているか調べた結果、被害者の多くは60代以上の高齢者が被害を受けており、年齢が上がるにつれ、オレオレ詐欺の被害に遭う確率が増加していくことも明らかになった。また、豊橋信用金庫様に勉強会を開いて頂き、御指導頂いた結果、平成21年度以降オレオレ詐欺の発生件数が増加し、そのうえ詐欺検挙率は低下していることが分かった。その理由としては近年オレオレ詐欺の手法が巧妙化していることからだと知った。

3. 被害者に遭う高齢者の特徴

私達が詐欺の被害者について学んだことは、お金を自分で管理している元気な高齢者であることが分かった。加えて、その被害者は、自分は絶対に騙されないと思い込み、加害者を身内と信じ込んでしまうことで、被害に遭っている。

4. 活動内容

私達は、様々な資料に基づき、オレオレ詐欺について調べ、かつ豊橋信用金庫様と話し合いを重ねた結果、「合言葉」がオレオレ詐欺に最も有効的な対策だという結論に至った。そこで、私達は、合言葉ステッカー(図1)と防犯啓発用チラシ(図2)を作成し、多くの老人クラブ等を訪問させて頂いた。ステッカーには、詐欺にもっとも効果的な「合言葉」の重要性を強調した内容が書き込まれ、ステッカーは、その「合言葉」が書き込めるようなものとなっている。老人クラブ訪問時にはアンケート調査も行った。集まったアンケートを元に高齢者の詐欺に対する傾向を集計して統計を出すことを狙いとしている。さらに、アンケートをもとに今後の活動の改善も狙いとしている。

5. アンケート集計結果

アンケートの集計をした結果が図3である。詐欺に騙されない自信のある人が70%詐欺に対して、対策をとっていない人が60%と非常に危ないことを改めて再確認することができた。私達は老人クラブに訪問した際の報告内容を99%の人に理解して頂いただけでなく、実際に合言葉の必要性を感じてもらえた人の割合は97%であり、多くの方に合言葉の重要性を理解して頂けた。さらに、配布したステッカーに合言葉を記入して貼ってくれると回答してくれた人は、95%とアンケート対象者のほとんどの方に、今回の活動内容を理解して頂けた。

6. まとめ

私達が、このプロジェクト活動を通して学んだことは多い。豊橋信用金庫の小宮山様や豊橋市役所の佐野様、小津様と協力してプロジェクトを進めることで、事前準備の必要性および物事を多面的に考えることの重要性を学んだ。さらに、老人クラブ等で人前で話すという経験を積んだことで情報発信力も身に付いた。何よりも、プロジェクト活動を通して多くの方々と触れ合えたことで、老人を思いやるという人間力を育むことができた。

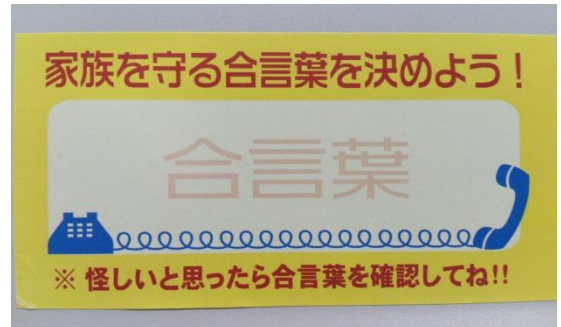


図1 合言葉ステッカー



図2 防犯啓発用チラシ

	全体	はい	いいえ
詐欺引っかけからない自信はあるか?	205人 69.8%	143人 69.8%	62人 30.2%
オレオレ詐欺に対して、対策をとっているか?	205人 41.0%	84人 41.0%	121人 59.0%
今回の発表について理解できたか?	205人 99.0%	203人 99.0%	2人 1.0%
今回の発表を聞いて、合言葉の必要性を感じたか?	205人 97.6%	200人 97.6%	5人 2.4%
配布したステッカーに合言葉を記入し、貼って頂けるか?	205人 95.1%	195人 95.1%	10人 4.9%

図3 アンケート集計結果

豊橋トップインタビュー2012

プロジェクトメンバー：鈴木一輝（3年）

協力メンバー：堀江光、大江澄南、宮崎康（4年）

1. 背景と目的

経営者はそれぞれに経営に関する考え方や経営哲学、将来に対するビジョンを持っている。本プロジェクトでは経営についての理解を深めること、それらを自身の行動決定の参考にすることを目的としている。そのために経営者に直接インタビュー活動を行う。そしてインタビュー活動とインタビュー内容をまとめて、WEB ページによって報告する。

2. プロジェクトの内容

(1) 事前準備

インターネットや広告から企業を選定し、アポイントメント確認、インタビュー準備を行う。

(2) 訪問インタビュー

インタビューはインタビュー者1名、記録者2名の体制で行い、ICレコーダーとデジタルカメラを記録に用いた。帰校後、記録のバックアップを作成する。

(3) まとめ作業

インタビュー後インタビュー記録を基に Word にて企業概要とインタビュー内容をまとめ、それを基に WEB ページ・報告資料の作成を行う。

以上の活動を実施したスケジュールを表1に示す

表1 プロジェクト活動のスケジュール

4月	・プロジェクト内容決定
5月	・訪問企業の選定
6月	・村松東先生に相談 ・インタビュー準備
7月	・7月23日 <u>パッケージプラザシライ本店へインタビュー</u>
8月	代表 白井成明 様 ・WEB ページ作成開始
9月	・企業選定、調査 ・インタビュー準備
10月	・10月29日 <u>ワルツ株式会社へインタビュー</u> 代表 片桐逸司 様
11月	・インタビュー準備 ・11月12日 <u>株式会社お亀堂へインタビュー</u> 代表取締役 森慎一郎 様 ・WEB ページ作成開始
12月	・12月7日 報告書作成開始 発表資料作成開始 ・12月18日 成果報告会

3. インタビュー結果

今回のプロジェクト活動では3社に訪問させていただいた。以下に訪問した報告を簡潔に述べる。詳細は WEB ページに掲載する。

(<http://projectweb.sozo.ac.jp/miyoproj2012/>)

《パッケージプラザシライ本店》

パッケージプラザシライ本店ではお客のニーズに応えるため、様々な工夫がなされていた。また「お客様はパートナーである」という経営理念の下、お客さんと対等な立場に立って経営を行っていた。

《ワルツ株式会社》

ワルツでは「大きな会社よりいい会社」という経営理念の下に、多角的な経営がなされていた。また環境保護にも積極的な姿勢がうかがえた。

《株式会社お亀堂》

お亀堂では伝統を守り、地元のお客さんを大切にする地域に密着した経営がなされていた。



パッケージプラザシライ
本店 店長 白井成明様



ワルツ株式会社
代表取締役 片桐逸司様
(写真右)



株式会社お亀堂
代表取締役 森慎一郎様
(写真右)



WEB ページのイメージ

4. 所見

今回のプロジェクトを通して、経営者の考え方的一端に触れることができた。中には自分には無い物の見かたもあり、それに触れたことは大変貴重な経験であったと感じた。また、話をすることの難しさ・自身の未熟さについて強く実感した。このようにプロジェクトを通して得た様々な経験を生かし、今後自身を高めていきたいと感じた。

のんほいパーク 盛り上げ隊!!

プロジェクトメンバー

情報ビジネス学部キャリアデザイン学科3年 三輪ゼミ

田中 沙弥香

太田 詩織

佐々木 千聡

浅井 美咲

鈴木 晴香



プロジェクトの目的

のんほいパーク活性化

Web サイトを活用して積極的な情報発信を行い、のんほいパークの活性化を目指す。

地域社会への理解

総合動植物公園（市営）とみどりの協会（公益財団法人）との関係性を理解する。また、総合動植物公園とその近隣の飲食店との関連についても理解を深める。

広報活動への理解

インタビュー等により情報を収集し、それを整理・加工することで受信側の立場に立った情報発信を行う。

協力・連携先企業

- 豊橋総合動植物公園（のんほいパーク）

- 豊橋みどりの協会（のんほいパーク内売店）

- のんほいパーク近隣の飲食店
コンビニエンスストア



活動報告

Webに掲載する情報を収集

飼育員の方へのインタビュー

動物の面白いエピソードや飼育の裏話を聞くため、飼育員の方への取材を行った。

8/ 1 … バードエリアと極地エリア

10/12 … なかよし牧場

11/27 … 郷土の動物園

オリジナル商品について取材

のんほいパーク内売店で販売されているオリジナル商品について、豊橋みどりの協会の方へ取材を行った。

近隣の飲食店へ協力依頼・取材

取材と Web サイトに掲載する許可を得るため、のんほいパーク近隣の飲食店を訪問した。

Webサイト制作

取材で収集した情報を発信するための Web サイトを制作し、のんほいパーク利用者の方に向けて情報を発信した。

創造祭での活動

学祭パンフレットに本プロジェクトのシール（QRコード記載）を貼付し、中間報告パネルや動物の写真を展示することで、活動について認知度の向上を図った。

インタビューの様子



バードエリア



極地エリア

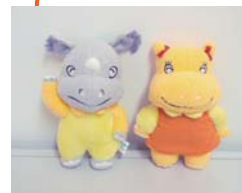


なかよし牧場

オリジナル商品（一部）



パーク内売店



おもちゃ類



お菓子類

作成した Web サイト



トップページ



飲食店紹介ページ

その他



シール（創造祭）
名刺（取材用）

まとめ

Web を利用して閲覧者の役に立つ情報発信を行うためには、

- 有効な情報の収集
- 見て楽しい Web サイトの作成
- 情報の定期的・継続的な更新
- 活動そのものの広報・認知度の向上

等のポイントがある。メンバーで協力して様々な課題に取り組み活動を行った経験を通して、継続して情報を発信し続ける難しさ、労力の大きさ、等を体感することができ、広報活動についての理解が深まった。

「のんほいパーク」や「みどりの協会」の取材で、非常に多くの組織・人々がそれぞれの担当に責任を持ち、連携・協力してパークを維持管理していることが理解できた。

また、近隣の飲食店やコンビニエンスストアへの取材を通して、周辺の多くの店舗がパークの存在を意識し、いい意味で「利用し合って」いることがわかった。地域社会の仕組みや連携について、身近に感じられるようになった。



豊橋献血促進プロジェクト

YAMAGUCHI
semi

情報ビジネス学部

大場正義 金子忠史 中野景子 橋本卓也

連携先:愛知県赤十字血液センター様

背景・目的

若年層の献血率が低下

- 10代:S60年25.4% → H21年6.1%
 - 20代:S60年17.6% → H21年7.9%
- 少子高齢社会・・・血液需要増加

血液製剤等の不足

将来の安定供給には
若年層の献血への
協力が不可欠

地元の豊橋から
献血率向上を目指す

献血促進運動!
(広報・呼びかけ活動)

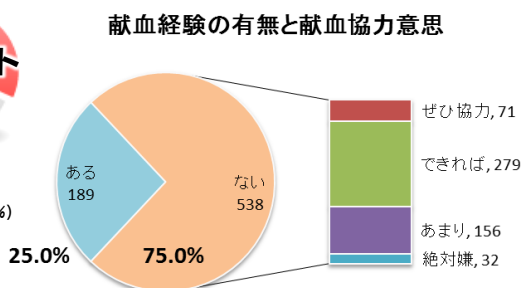
活動概要

● 学内意識調査(本学学生対象、6月～7月上旬)

献血率向上のヒントを得るため若年層の意識を調査

アンケート
結果

1028枚配布
756枚回収
(回収率69.87%)



経験のない学生の約6割には協力の意思

(経験ありの人)献血したきっかけは?

- 1位:自発的に、2位:知人・友人に誘われて
→ 未経験者に対する **必要性の説明(啓発)**
経験者の協力(誘導)がカギ

(経験なしの人)その理由は?

- 1位:行く機会がない、2位:注射・採血が苦手
→ 対策案: **献血バス運行日の周知などが重要**
広報活動を通して実施

● 血液センターの方々と意見交換(11月1日)

献血に関する基礎知識や
若年層に対する既存の取組について伺う



メンバーからは
・アンケート結果報告
・質問

● 献血呼びかけ活動(協力呼びかけの現場を体験)

6/17	豊橋南イオン
7/22	豊橋駅南口(サマー献血)
12/16	豊川イオン(X'mas献血)



赤十字献血イベント
呼びかけボランティア!
(受付への誘導など)

● 広報活動(Webサイト構築:5月～)

献血に関する理解を深めるための情報を公開

- 献血に関する基礎知識
- 献血イベント日程
- 本学意識調査結果・・・などを掲載



プロジェクトWebサイト
検索ワード: 豊橋 献血



Webサイト周知(アクセスアップ)の取組

- 名刺カードの作成
(創造祭にて配布)
- 三角柱POPの作成
(学生ホール等に設置)

QRコード、イベント日程、
サイト注目コンテンツの概要を掲載



まとめ

- ・若年層(主に本学学生)の献血率向上を目的とした広報・呼びかけ活動等を実施
- ・学内意識調査の結果より、献血未経験学生の6割は協力の意思があることを確認
- ・今後は4月学内献血に誘導するための活動を実施(献血を経験してもらう機会とする)
→ 献血受付者数の増減からプロジェクト活動の効果を評価予定

学内から
献血率UP!